



平成22年1月27日
第1回「新しい公共」円卓会議
海津歩委員提出資料

SWAN BAKERY

いっぱい いっぱいの 笑顔

障がい者による会社経営は
人々の元気に直結する
厳しいけれど温かい活動であり
絶対にあきらめず

凜として人生に立ち向う勇気を伝えていきます。



スワンベーカリーとは

「障がいのある人もない人も、共に働き、共に生きていく社会の実現」このノーマライゼーションの理念を実現させるためにコロナコマトの宅急便の創業者である故・小倉昌男氏がヤマト福祉財団、ヤマトホールディングス株式会社と共に設立した会社です。

スワンベーカリー誕生の背景

日本の障がい者の数は人口の約5%、約600万人といわれています。この人達の大半は全国に6,000箇所以上ある共同作業所や小規模授産施設で働いていますが、1カ月の給料が1万円以下という低賃で自立するには、ほど遠い現状です。

福祉施設の幹部職員に経営のノウハウを伝授しなければ低賃金からの脱却は望めないことを痛感した故・小倉昌男氏は「製品」や「作品」作りではなく、一般の消費者を対象としたマーケットで売れる「商品」創りをめざしたセミナーを1996年から全国各地で開催し、意識改革に取り組んできました。

この過程で月給10万円以上支払うことを実現し、自らお手本を示す必要から「焼きたてのおいしいパン」店構想に着眼しました。

「アンデルセン」「リトルマーメイド」を全国展開しているタカキベーカリーの高木誠一社長という良き理解者、協力者を得て、同社が独自に開発した冷凍パン生地を使えば障がい者でもパンが焼けることが分かり、さっそく実践に移しました。

広がるベーカリーチェーン

1998年6月スワンベーカリー銀座店が第1号店としてオープン。スワンベーカリーの命名者は故・小倉昌男氏で、みくくいアヒルの子と思っていたら実は「白鳥＝スワン」だったというデンマークの童話作家アンデルセンの作品がヒントになっています。現在全国に26店をこえ280名以上の障がい者が経済的に自立して仕事を通して社会参加をはたしています。

これからもスワンは、元気よくはばたいて全国各地に次々と新しいお店をオープンさせています。



経営ポリシー（愛と正義と勇気の経営）

障がい者雇用と経営を両立するべく、愛と正義と勇気の経営を実践します。愛は障がい者と共生する愛、正義は損得よりも善悪の理念、勇気は諦めず実践していく勇気です。

障がい者の雇用と経営の両立が果たして可能なのかよく問われます。逆説的ですが、事業とはそれが世の中に役に立つことであれば必然的に市場に受け入れられ持続的経営が可能であり、経営できないとすればそれは経営者に問題があるというのが我々のポリシーです。



活動

スワンロハス SWAN LOHAS(Lifestyles Of Health And Sustainability)

スワンでは「健康にいい・環境にいい・障がい者にいい」をコンセプトに「ゆっくりとやさしく」スワンのロハスを推進しています。お店ではオーガニック食材やエコバッグの提供をしています。

企業のCSRにタイアップ

スワンの外販や各企業の記念品の販売は、企業団体のCSR活動と連携しています。

大学とのインターンシップ

大学での外販は社会学部の学生も参加し彼らの授業に直結。お店に学生を受け入れての実習など大学とのインターンシップを実施しています。

行政との活動

内閣府の障害者週間をはじめ、各団体のシンポジウムやCSR活動に参加し障がい者の真の自立を呼びかけています。

アート展・ミニライブなど

「集まれアーティスト」画廊の銀座店にあって、芸術を志す方々にお店の壁面を無料開放しています。

絵画に限定することなくフェアトレードのコットン展示や活花・プロジェクトを使用した映像・ミニライブの開催を通じ社会起業として、アーティストの支援もしています。

人材開発（スワンは我なり）

まず一人でできるように、できなければ人を介してできる「嬉しい」そして人の心の痛みのわかる「優しい人」になることを願います。そのために…

- 権限委譲による本人主体の職場で自発的意思決定力を引き出すOJT。
- 長所を活かし短所は仲間が助ける全員経営を推進します。

スワンは単に経済的自立だけでなく、ひとりでも生きていける、障がい者の真の自立を支援しています。

商品開発

- 市場経済で勝ち残れる商品の開発
障がい者ではなくあくまでも商品力を追究します。
- 障がい者の仕事となる商品の開発
製造箱詰め他、ネット通販のデータ入力など障がい者の新たな職域の開発にも挑戦しています。

販路開発

企業のCSRに直結したイベントや記念品として各企業のロゴマークをいれたオリジナル商品をご利用いただいています。

